

医療現場：看護部

テーマ：酸素投与デバイスによる皮膚障害の防止

■ 背景

酸素吸入は、呼吸機能が低下して体内への酸素供給量が不足している事が疑われる時に用いられる。そのような患者は24時間酸素吸入を継続するが、長期間の酸素投与が必要な患者さんも多い。

経鼻カニューレや酸素マスクにより吸入口を口元に固定するのだが、耳介部に医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)の発生がしばしば見受けられる。これはコロナ禍での長時間のマスク着用時にも話題になった。



<出典：看護roo>

■ 課題と現状の対策

褥瘡のうち一般病院では12.4%、訪問看護ステーションでは12.9%の患者で耳介部にMDRPUが観察されているという報告もあり(日本褥瘡学会、2013年)、このような患者に対しては皮膚保護のため、予防的に圧迫や摩擦を防止するため保護剤を使用している。保護材はロール状になっているものを使用分だけ切り取って使用している(創傷部位のみ、あるいは耳介に沿って貼るなどの手間は必要である)。

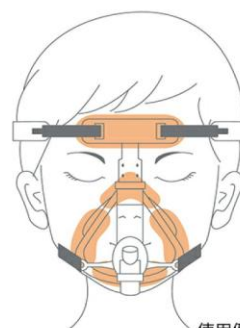


■ 課題策のアイデア事例

・酸素カニューレの場合は耳介に当たる部分を柔らかい素材で出来たもので保護する。



・NPPVの場合は、マスクと密着する部分を保護



使用例 (NPPVマスク)

【望ましい特性】

- ・容易に貼ることが出来る(時間や手間がかからない)
- ・交換する際にも容易に取り除くことが可能な性質
- ・皮膚に対して刺激性がない事
- ・創傷を誘発しない素材で出来たライン

■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>